

大崎開設110余年の歴史の上に築いた“新たなつながり”。

大崎のまちのキャンパス「立正大学」

過去から現在、未来へと受け継がれていく「ふるさと大崎」のDNA（原風景）を訪ねる『おさき今昔物語』。

その第二十六話は、遡ること400年余の昔、日蓮宗僧侶の教育機関を淵源として設立された「立正大学」の話。明治37年に「日蓮宗大学林」として大崎（現・品川）キャンパスが誕生。

1920年頃、「日蓮宗大学」時代の講堂 以来114年にも及ぶ歴史を大崎のまちと共に紡いできた立正大学。今、“大崎のまちの大学”としてのその存在感がもたらす新たな可能性に、大きな期待が寄せられています。

現在の品川キャンパス

History これまでの歩み

- 1580 日蓮宗の教育機関として千葉県に檀林を創設
- 1872 東京芝二本榎に小教院を設立、大学の開校
- 1904 専門学校令による日蓮宗大学林設立（大崎キャンパス、現・品川キャンパス設置）
- 1907 日蓮宗大学と改称
- 1924 大学令による立正大学設立（宗教学科、哲学科、社会学科、史学科、文学科）予科、及び研究科を設置
- 1925 日蓮宗大学を立正大学専門部と改称
- 1945 戦災の為、大学講堂・寮、中学校舎等を消失
- 1949 学校教育法により新制大学となる
- 1950 短期大学部設置
- 1951 私立学校法により財団法人立正大学を改め、学校法人立正大学学園（立正大学、同短期大学部、立正高等学校、立正中学校）となる
- 1952 後に総理大臣となる石橋湛山が第16代学長に就任
- 1967 熊谷キャンパス（教養部）開設
- 1992 開校120周年 大崎キャンパス再開発竣工、ハイテク機器導入のインテリジェントキャンパスへ
- 2002 開校130周年
- 2004 大崎キャンパス総合学術情報センター竣工
- 2005 大崎キャンパス 9号館（立正大学付属立正中・高等学校校舎及び大学教室）竣工
- 2006 大崎キャンパス 12号館（学生厚生棟）竣工
- 2012 開校140周年
- 2013 中高を馬込キャンパスに移転
- 2014 大崎キャンパスの名称を品川キャンパスに変更
- 2017 熊谷キャンパス開設50周年
- 2022 開校150周年



後に総理大臣となった第16代学長 石橋湛山氏
『日本のケインズ』とも称され、自由主義と民主主義を掲げて世界平和に貢献した



正門より望む本館（開校当時）



1926（大正15）年頃の犬崎校舎（現・品川キャンパス）



「アクティブラーニング」に基づく先進的な教育プログラム



同上、当時の図書閲覧室



「しながわ夢さん橋」での設置支援



大崎のまちの美化に向けた「お花いっぱい大崎」運動で、指導役として力を尽くす立正大学生。地元を思う気持ちが子供達の心を育てます。

鎌倉時代の宗教家、日蓮聖人が記した「立正安国論」を校名の由来とする「立正大学」。それは「正しき」を立て（立正）、国や社会、人々の安寧・平和のために尽くす（安国）との日蓮聖人の理念が、立正大学の建学の精神として生き続けていることを明しています。「日蓮宗大学林」として初めて大崎に学舎を開いて4年。2022年には開校150周年を迎える、その長い歴史の中に育んだ「立正・安国」の姿勢は、今、多くの地域貢献活動の原動力となつて大崎のまちに「新しいつながり」の輪を築いています。



日蓮宗の宗祖、日蓮聖人

日蓮聖人の建学の精神を源流に

今から400年以上も前、日蓮宗の檀林（学問所）が千葉県に創設され、その後1904年（明治37年）に「日蓮宗大学林」として大崎に学舎が設置されて今日に至った立正大学。現在では、その豊かな歴史の上に「モリス・ス・エキスパート」を育む。を教育目標として8学部7研究科を擁して活動する「人間・社会・地球に関する総合大学」としての名は、広く国内外に知られるところ。とくに、日蓮聖人由来の建学の精神が生きたる当大学の地域貢献活動は、地域社会の注目を集めると共に、学生達の地域参加がもたらす新たな可能性に大きな期待が寄せられています。

まちを伸ばす力へ。地元支援を推進



若きボランティア・パワー

学生や研究者を中心とした地域貢献活動を、「コミュニティ・サービスラーニング授業」の環と捉えて力を注ぐ立正大学では、「地域連携支援室」や「社会福祉学部ボランティア活動推進センター」を設けて学生と地域のつながりを積極的に推進しています。とくに大崎のまちでは、「しながわ夢さん橋」イベントでの幅広いボランティア活動をはじめ、「お花いっぱい大崎」（花植え運動）での主体的なサポート（写真上など）、地元大崎の魅力づくりに向けた様々なイベント支援を行うほか、五反田商店街においては、柔軟な発想を生かした「まちおこしサワー」の開発プロジェクトなどで、地元の活性化を支援しています。また、品川区との協働による「しながわを学ぶオーブンカレッジ」の開講や、勝島運河護岸に菜の花を咲かす「しながわ花道プロジェクト」への協力など、その地域貢献の姿はまさに「立正安国」の精神そのものと言えそうです。由緒ある学舎に育つ若き創造性と熱意——立正大学と学生達の持つそのポテンシャルは今、まちを伸ばす力として開花しつつあります。



「しながわ夢さん橋2018」にボランティアスタッフとして結集した立正大学生。今年も会場設営から進行支援、「ノンストップ山手線・夢さん橋号」車内での「おもてなし」まで担当。「イベント盛り上げ隊」の柱としての存在感を示しています。



位置図